(様式1)

自己評価票

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年の職員研修の際に職員に伝え、目標達成に努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や地域の方たちに理解してもらえるよう運営推進会議や行事を利用し交流の機会を意識的に行っている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	食材の買い物外出・日々の散歩を行っている中で近所の方たちと挨拶を交わしている。地域・町内とは夏祭りを町内の夏祭りと同じ日にし、ねぶた運行を行い交流を深めた。その際町内の婦人会の方が夏祭り前に盆踊りを教えに来てくれ、入居者の方たちと一緒に練習をしてくれた。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を受ける際、スタッフと共に評価項目を検討し、意義についても伝えて共有している。また、自己評価後にもスタッフに結果を伝え、改善に取り組んでいる。		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の方たちにも出来るだけ参加してもらい、意見を頂いている。それに基づきサービスの見直しを行ったり、日々の生活に反映させたりしている。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分からないこと・疑問に思うこと等はその都度電話で問い合わせをしている。運営推進会議の案内も出している。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員研修の時間を設けた。また、必要と思われる方には利用を勧め、その内容についても説明している。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社外研修に参加し、参加した職員が時間を設けて研修報告をし虐待について学び、防止に努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、ご家族の不安・疑問についても答えている。契約・利用・退所後も必要に応じてその都度話をする機会を設け対応している。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方たちは不満があればその都度話してくれている様子。また、不満・苦情等があった場合にはスタッフ全員で対応に努めている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時・運営推進会議を通して細かく伝えている。また、遠方のご家族にも必要時その都度連絡をしている。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方たちもスタッフ・管理者に伝えてくれている。また、ご家族の表情を見て、いいたくてもいえない状態が見られるときは時間を設け、お話をしていただけるよう努めている。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの都度議題にないことでも何かないか必ずスタッフに聞いている。また、日々スタッフの表情や気持ちの変化に気を配り、必要と思われるときは声をかけている。また、スタッフから話してくれるときも多々あり話し合いをしている。それによりスタッフの意見を取り入れている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間帯についても必要時には変更している。勤務に関しても状態を見て変更をしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの移動は必要最小限としている。どうしても必要となる場合、入居者の方もスタッフもお互いなれる機会を設け、移動による影響を最小限となるように努めている。		
5．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年に一度の社内研修を行っている。また、入居者の変化に応じてその都度研修を行っている。ほか、社外研修の参加についても研修希望者には研修費を補助・勤務の優先をし、学べる機会を提供している。研修後は時間を設けて研修報告を行い、他スタッフに伝えている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームと一緒にリハビリ研修を行っている。夏祭りにはお互いに誘い合い・参加しあうなど交流をさせてもらっている。	○	現在リハビリ研修はだいたい2ヶ月に一度のペースで行い、入居者同士の交流は徐々に見られてきたので、今後はスタッフ同士の交流も持てるように努めていきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム内での出来事に対しての相談に親身に乗ってくれ、助言してくれる。常に気に掛けてくれ、声をかけてくれる。スタッフの慰労をかねてのバーベキュウ会を開催してくれたりしている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員・管理者の努力を認め、言葉にしている。また、その努力を手当てとしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた際、話しにくいことも話してもらえるよう、不安を解消できるよう努めている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時・面接時等に主訴が何であるかを把握するよう努め、確認をしている。また、他のｻｰﾋﾞｽを利用することが適当と思われる場合には説明し対応している。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前にはご本人も出来るだけ見学に来てもらえるようにし、また、入居に関しては本人の気持ちを尊重し入ることを納得してもらえるようにしている。また、入居決定後にはなるたけご本人に会う機会を設けて顔なじみになれるよう努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々入居者から学んでいる。介護されている・という意識をもたなくてもいいように自然に介護できるように意識し、日々努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはご本人の近況を伝えたり、一緒に参加できる行事を企画したり、運営推進会議の際に一緒に過ごす時間を作ったりと、本人との時間を共有してもらい、また、必要時には通院介助をお願いしたりと協力を頂いている。	○	状態の変化（特に病状的なもの）があったときに随時ご家族には説明をしているが、そのときのご家族の不安・疑問を解決していくことにもっと力を入れ、対応していきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族とご本人が望むお互いの距離を把握することに努め、それに合わせて援助している。	○	本人本位になりがちなため、ご家族の気持ちを汲み取り、対応していきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が入居前に利用していた美容院・理容院等にいけるように支援している。知人への電話の利用・手紙の投函等も介助している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの関係性・位置を把握し、援助・介入している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	夏祭りへの参加のご案内、いつでも訪ねてきてもらってもいいことを機会があるごとに伝え、また、訪ねてきてくれている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話を通して、また、アセスメントを通してご本人の希望に沿って生活していただけるよう努めている。		
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談を受けた際に細かく聞かせてもらい把握に努めている。また、入居後も情報収集に努めている。	○	再アセスメントを行い、把握に努める。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的なカンファレンスを通して、スタッフそれぞれの情報を話し合い把握に努めている。状態の急激な変化があった際にはその都度カンファレンスを開き、把握できるようにしている。	○	今後も継続し把握に努めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ご本人の意向・ご家族の意向を把握し、担当医からの指示・指導を頂きながら希望に添った生活が遅れるように支援している。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しの際には、定期的・状態の変化に関わらずカンファレンスを開いている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケースに必要項目は細かく記載し、その記載の部分をスタッフ全員が読み・把握できるように申し送りを通して徹底している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療的なサービスには担当医と相談し柔軟に対応できている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の必要に応じて支援している。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在利用されている方はいないが、今後は必要に応じて支援していきたい。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者の方が退所された際に包括のほうに連絡させてもらったり、入居者のご家族に対しても必要時対応している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が望む病院への通院の援助をしている。状態の急変時等もかかりつけ医からの指示・往診を受け、随時担当医からの説明（管理者も同席）をご家族に受けてもらっている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	スタッフの疑問に思うこと・不安に思うことにも担当の医師が相談に乗ってくれ、指示・指導を受けられている。ご本人の相談にも親身に乗ってくれ治療をしてもらっている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日々看護師への相談・支持・指導を受けながら対応している。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した際には、スタッフそれぞれが時間を作りお見舞いに行ってくれたり、早期退院に向けて病院と相談しなるべく早めに退院となるように支援している。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	している。スタッフにも随時カンファレンスを開きターミナルに向けての対応を統一している。その際、スタッフの精神的な負担も考慮して必要時担当医・看護師とのカンファレンスを開き、なるべく不安を取り除くようにしている。ご本人に関しては最期のときまでご本人の望む形で、安心して生活できるようスタッフ全員で努めている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	行っている。かかりつけ医・病院も２４時間対応の体制をとってくれ、医療との細かい連携により行っている。出来ること・出来ないことを早期から把握し、状態の変化に応じて随時見直しをかけ、その都度ご家族にも説明を行っている。また、ターミナルとなった際に文書での説明も行っている。	○	さらに充実させ、ご本人・ご家族ともになるべく不安の少なくなるよう支援していきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送り時にも十分に注意・配慮している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	各個人に合わせながらの説明・選択方法を行い、できるだけ全員が自分で決定できるように支援している。	○	変化していく個人の力に合わせた支援ができるように常に努力していく。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々の希望・要望に日々出来るだけ答えられるように努力している。その日、そのときに対応できない場合でも近いうちに対応できるように調整している。	○	今後も継続して、答えていえるように努める。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居前に行っていた美容院へいけるよう支援している。また、近所の美容院へ全員行くのではなく、ご本人に合ったところへいけるよう配慮している。」	○	今後も本人の意思をその都度確認しながら援助していけるよう努める。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日入居者の方が主体となって調理に取り組んでいる。一人一人の好みに毎日合わせることは出来ないが、希望があった場合は献立を変更したりしながらメニューに入れ、出来るだけ対応している。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	している。個人の疾病にあわせての支援している。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	している。排泄チェック表をつけ、援助の必要な場合は表を活用しながら排泄の援助に役立てている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に関しては基本的に毎日対応している。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の個人の状態に合わせて、眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なものでそれぞれが活躍できる場を意識的に作って支援している。その際、失敗による自信喪失を防ぐ為に失敗の内容に支援できるよう努めている。	○	ご本人の力に合わせて今後も継続していけるよう、負担とならないように支援していく。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望でお小遣いを個人で持っていられるように援助している。その際ご家族にも相談し・了承を得ている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて買い物へ行ったり、新しく出来た店やショッピングモールへ行ったり、公園への散歩を支援している。その際、運動不足なかた、こもりがちな方にも声がけし、対応している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームでの対応が可能な場合は個人個人で対応している。どうしても対応が困難な場合はご家族に協力をお願いして対応して頂いている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	している。日々の本人の希望に対しても対応しているが、毎年、年末には手作りの年賀状を作り、ご家族に届けている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	各居室の掃除・整理に気を配り、ご家族等がいらしたときにも居心地良く、遠慮なく過ごせるように配慮している。その大切さをスタッフ全員が理解してくれている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての社外研修にも参加し、参加したスタッフが他スタッフへ報告、また、カンファレンスの際にも必要時その都度拘束についての話をしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	拘束・虐待と同様に必要時、随時スタッフと話し合い施錠によるリスクを確認している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各個人の予想できるリスクについてカンファレンスを通してスタッフ全員で把握できるように努め、配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各個人のリスク管理を行っている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各個人の予想できるリスクをスタッフ全員で把握できるよう努め、事故防止に取り組んでいる。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が救命救急訓練を受けている。	○	今後の講習の継続と、必要時の研修をしていく。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は日中・夜間設定ともに行っており、その中で個人の力に合わせた避難の仕方、助け合いながらの避難の協力をお願いし、実施している。	○	災害対策の周知徹底をしていく。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時に考えられるリスクに関して細かく説明するようにし、入居後も必要時にその都度説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフ全員が入居者の小さな変化に敏感になり、かかりつけ胃の報告・相談が出来る体制を24時間で行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自確認に努め、薬の変更があった際にはスタッフ全員が把握できるようにしている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる。水分量の把握に努め、運動量にも配慮している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行い、口腔内の観察も行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている。本人の飲みやすいものを個々に把握し、それに応じて対応していく。その際カロリー過多にならないように気をつけている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ある。職員への指導も随時行い、確認している。	○	今後も常に確認・指導が必要。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒・食材の管理の徹底、必要時の指示・指導を行い、スタッフ全員で予防に取り組んでいる。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場の入り口に花を置くなど工夫している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな物音の立つことの内容に気をつけたり、季節の花を飾ったり、その都度必要な配慮をしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれがいやすい場所を見つけ、入居者同士のコミュニケーションの場としている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具・飾り物等をできるだけ居室に置けるように支援している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中・夜間共に個人に合わせた温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの整備・動線上に物を置かないように気を配り、各個人が安全かつ自立した生活が送れるように支援している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の力に合わせて、各動作・作業等に失敗して自信喪失することのないように、自立した生活を送ることが出来るようにスタッフ全員で対応・支援するようにしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室の飾り付け・配置等は各個人の希望に合わせ、リビングについても入居者の方の使いやすいように意見を取り入れている。		

(▒ 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

あくまでも全てにおいて入居者主体を基本にしている。なるべくスタッフの都合を優先することのないようにスタッフ全員で努めている。